

緩和ケア内科フェローシッププログラム

【研修の概要】

近年、緩和医療の概念は末期の進行疾患のみが対象ではなく、積極的治療期間にこそ、緩和ケア（サポートティブケア）を提供すべきであるという方向へ変化しています。当院緩和ケア内科では、緩和ケア病棟における終末期医療の提供のみならず、がん診断直後の心のケア・根治術後の疼痛管理・化学療法中の支持療法提供など、積極的がん治療を **Support** する緩和医療を提供しております。また、「麻酔科専門医ならでは」の治療として、超音波ガイド下神経ブロックや神経破壊術、超音波ガイド下中心静脈穿刺なども積極的に行っています。

自然豊かで人情味あふれる播磨の地で、人情味あふれるホスピス・緩和医療をともに学びませんか。

【対象】

卒後 3 年目以降（おおむね 10 年目まで）

卒後 3～4 年目は後期研修医としての採用

卒後 5 年目以降は緩和ケア内科医師として採用

【研修期間】

2 年間（希望により延長可能）

【一般目標】

生命を脅かす疾患に罹患している患者や、その家族に対して緩和ケア・緩和医療を提供する能力を身につける。

【行動目標】

1. 緩和ケア・緩和医療領域の標準的な診断治療について理解し、実践することができる。

2. がん治療医チームと共同して、緩和ケア・緩和医療を提供できる。
3. 緩和ケア病棟での緩和ケア・緩和医療を行える能力を身につける。
4. 緩和ケア・緩和医療領域の生涯学習を自分で行うノウハウを身につけ、目の前に起こる事象に対して科学的検証を行える能力を身につける。
5. 臨床研究を自ら企画・遂行し、緩和医療に関連の科学雑誌に論文を1報投稿する。
6. 超音波ガイド下神経ブロックや、仙骨硬膜外麻酔など、初歩的な Pain intervention の技術を身につける(6ヶ月以上の麻酔科研修経験者のみ：当院での麻酔研修も可能)。

【主な研修内容】

毎日：緩和ケア病棟カンファレンス・緩和ケア病棟回診・緩和ケア病棟入院判定外来を担当

毎週火曜：緩和ケアチーム回診

毎週水曜：緩和ケア病棟多職種合同カンファレンス

第1・3火曜：緩和ケアチーム多職種合同カンファレンス

各種学会・研修会に出席して頂きます(年2回まで公費出張可能。なお学会発表の演者に限り、さらに3回(計5回)公費出張可能。)

【臨床研究プログラムについて】

1か月目～2か月目 オリエンテーション・日々の業務の中から研究シーズ検討

3か月目～4か月目 研究プロトコル作成 倫理審査など

5か月目～17か月目 日々の臨床を行うとともに、臨床研究を遂行する。

18か月目～19か月目 日々の臨床を行うとともに、論文を執筆し、投稿する。

【研修指導医】高橋正裕(緩和ケア内科部長)

1998年 奈良県立医科大学医学部医学科卒

2004年 奈良県立医科大学大学院医学研究科卒(薬理学)

2005年 奈良県立医科大学 麻酔科学教室 助教

2010 年 奈良県立医科大学附属病院 緩和ケアセンター 講師

2012 年 現職

医学博士(奈良県立医科大学薬理学教室)

日本緩和医療学会専門医・指導医

日本麻酔科学会専門医・指導医

がん治療認定医

認知症サポート医

麻酔科標榜医